



国際交流基金

<http://www.jpf.go.jp/>

PRESS RELEASE

September 2, 2008, No.361

2008年度国際交流基金賞受賞者が決まりました。

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は1973年以来毎年、学術・芸術など文化活動を通じて日本と海外の相互理解の促進に顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授賞しています。このたび2008年度の受賞者3名が決まりました。

国際交流基金賞：文化芸術交流部門

マルコ・ミュラー Marco MÜLLER ヴェネチア国際映画祭ディレクター
【イタリア】

欧州の主要な国際映画祭のディレクターとして、日本を含むアジアの優れた映画を見出して積極的に紹介し、日本映画の豊かさを広く海外に知らせることにより、世界の新たな文化的創造に大きく貢献した。

国際交流基金賞：日本語部門

アンジェラ・ホンドルル Angela HONDRU ヒペリオン大学教授
【ルーマニア】

ルーマニアにおける日本語教育の草創期より長年に亘り教師、教科書執筆者、研究者として日本語普及を積極的に行うとともに、ルーマニア語への翻訳を通して日本近・現代文学及び日本文化の紹介に大きく貢献した。

国際交流基金賞：日本研究部門

ケネス・パイル Kenneth B. PYLE ワシントン大学教授
【米国】

日本近・現代史を中心とした学術研究において多大な業績を挙げると共に、日本研究学術誌の編集委員長や日米関係の委員会の要職を務め、米国における対日理解、日本研究の発展と日米の学術交流に大きく貢献した。

授賞式は10月1日(水)18時30分より、ホテルオークラ東京にておこなわれます。

昨年度まで、国際交流基金賞、国際交流奨励賞を授賞しておりましたが、今年度からこれらを統合し、文化芸術交流、日本語、日本研究の3部門で国際交流基金賞を授賞することとしました。

貴紙・誌への掲載を歓迎します。また授賞式出席希望者はご連絡ください。

担当：情報センター 菅野・宮本 kikinsho@jpf.go.jp

「地球を、開けよう。」

情報センター
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1
Tel:03-5369-6075 Fax:03-5369-6044

2008 年度国際交流基金賞受賞者プロフィール

国際交流基金賞 文化芸術交流部門

マルコ・ミュラー

ヴェネチア国際映画祭ディレクター (イタリア)

1953 年生まれ (55 歳)

イタリアで研究者として活動した後、1978 年ごろより映画評論家、プロデューサーとして活躍。ペザロ国際映画祭(イタリア)、ロッテルダム国際映画祭(オランダ)ロカルノ国際映画祭(スイス)など欧州の映画祭ディレクターを歴任した後、2004 年より現職。これら国際映画祭において日本映画特集を実施し、日本の映画監督を高く評価し紹介するなど、映画を通じた海外への日本文化紹介に大きく貢献した。

ヴェネチア国際映画祭は 1932 年に開始された世界で最も長い歴史のある映画祭。2005 年に宮崎駿監督に栄誉金獅子賞を贈り、また 2007 年には北野武監督映画作品にちなんで、『監督・ばんざい!!賞』(Glory to the Filmmaker! award)を創設、第 1 回受賞者に北野監督を選んだ。今年の映画祭は 8 月 27 日に始まり、日本の 3 作品がコンペティション部門に出品され話題をよんでいる。

国際交流基金賞 日本語部門

アンジェラ・ホンドゥル

ヒペリオン大学言語学部日本語・日本文学科教授 (ルーマニア)

1944 年生まれ (63 歳)

70 年代後半から人民大学の日本語講座で講師を務め、1989 年の体制転換後もヒペリオン大学への日本語・日本文学科開設、高校や小学校での日本語授業開始に尽力し、数々の日本語学習書を執筆するなど、日本語普及活動を積極的に行ってきた先駆者である。また、三島由紀夫、夏目漱石、安部公房、太宰治、村上春樹などの作家の日本文学名作のルーマニア語への翻訳を行い、ルーマニアでの日本文学の紹介にも貢献した。(2008 年外務大臣表彰)

近年は日本とルーマニアの民間信仰についての研究を進めており、2005 年には国際交流基金フェローとして来日、日本の神楽について調査、ルーマニアとの比較研究などを行った。

国際交流基金賞 日本研究部門

ケネス・B・パイル

ワシントン大学歴史学部・同大ヘンリー・ジャクソン・スクール教授 (米国)

1936 年生まれ (72 歳)

1958 年ハーバード大学卒業、65 年ジョンズ・ホプキンス大学にて博士号取得(日本史)。日本近・現代史、政治・外交史で優れた多大な業績を納め、日本研究のリーダーのひとりとして活躍。数々の研究機関、諮問機関において活発な活動を行うとともに要職に就いて、米国における対日理解の促進に多大な貢献をした。

1989 年にシンクタンクのアジア研究ナショナル・ビューロー(National Bureau of Asian Research(NBR))を設立してアジア研究の振興に努めるとともに、行政機関への政策提言、助言を行っている。2006 年 11 月には NBR 内に北東アジア研究に特化した「パイル・センター」Kenneth B. and Anne H.H. Pyle Center for Northeast Asian Studies が創立された。(1999 年勲四等旭日中綬章)

2007 年に、今日までの約 150 年の日本の外交政策について分析した著書「Japan Rising-The Resurgence of Japanese Power And Purpose」が刊行された。